



WMF 9000 F

Internal Storage

取扱説明書

日本語

弊社のWMFコーヒーマシンをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

コーヒーマシンWMF 9000 F Internal Storageは、淹れたてのフィルターコーヒーを必要な量だけ保管容器に抽出して、そして保管容器からコーヒーを取り出せる全自動装置です。



取扱説明書の指示に従ってください



- > 使用前に取扱説明書をお読みください。
- > 取扱説明書、特に安全上の注意事項と「安全性」の章の指示を遵守してください。
- > コーヒーマシンの警告注記に注意してください。
- > 取扱説明書はスタッフや全ユーザーがいつでも参照できるようにしてください。



感電死の危険あり



- コーヒーマシン内の主電源電圧は生命の危険にかかわるほど高圧です。
- > マシン外装は絶対に開けないでください。
- > 絶対にねじを緩めたり、外装部分を外したりしないでください。



設置・使用条件

- メンテナンス規定や「テクニカルデータ」の章にある規定の遵守を怠った場合、損害が発生しても一切責任を負いかねます。
- > 取扱説明書の指示に従ってください。
- > 試運転調整、メンテナンス、修理に係る作業はすべて、正規交換部品を使用する条件でWMFサービス担当者によってのみ行われることが許可されています。

注意

取扱説明書の記号とアイコンに従ってください
20℃ -ジ

安全性についての章を参照
▷6ℓ -ジ以降

警告

安全性についての章を参照
▷6ℓ -ジ以降

重要

テクニカルデータ
▷83ℓ -ジ以降
メンテナンス
▷73ℓ -ジ以降

1	安全性	6
1.1	一般的な安全上の注意事項	6
1.2	使用目的	13
1.3	設置・使用条件	16
2	序章	18
2.1	コーヒーマシンの各部名称	18
	供給可能表示	18
	用語集	21
3	操作	22
3.1	操作に関する安全上の注意事項	22
3.2	コーヒーマシンのスイッチを入れる	23
3.3	飲料供給	23
	飲料のキャンセル	23
3.3.1	ポット抽出	24
3.3.2	保管容器からの飲料供給	24
3.4	熱湯供給	25
3.4.1	シングルショット/ポット/ズル	25
3.5	手動取り出し	25
3.6	特別ボタン (オフ ション)	26
3.7	コーヒ-粉ボ-ンジョ-	26
3.8	マニュアル投入	27
3.9	コーヒ-カ-の廃棄 (オフ ション)	28
3.10	コーヒーマシンのスイッチを切る	29
4	ソフトウェア	30
4.1	概要	30
	供給可能	30
	機能ライン供給可能表示	30
	メインメニューの機能	31
	メニュー制御パッド	31
	パッド上の通知	31
4.2	供給可能表示	32
4.2.1	飲料ボタン	32
4.2.2	保管容器用メニュー	32
4.2.3	機能ライン	33
	保管容器クイックキー	33
	手動取り出し	33
4.3	セルフサービスモードでのモード準備ディスプレイ	33
4.4	カスタマーケア	34
	システムクリーニング	34
	クリーンロック	34
	説明	34
	コーヒ-粉分離装置	35
	設定	35
4.5	飲料	36
	概要	36
	容量と供給オフ ション	37
	レベルの変更	38
	テキストと画像	39
	ボタンの入れ替え	39
	保管容器の抽出量を設定する	40

目次

4.6 操作オプション	41
操作要素	41
ボタンアウト	43
飲料のキャンセル	43
ロック	44
4.7 インフォメーション	45
前回の抽出	45
タイマー	45
サービス	45
カスタマーケア	45
浄水フィルターとカルキ除去	45
アラート	45
4.8 会計	46
カウンター	46
自動販売機	46
外部会計	46
無料設定	47
正味会計	48
4.9 PIN権限	48
クリーニング PIN	49
設定 PIN	49
会計 PIN	49
新しい PIN を入力	49
4.10 タイマー	50
時刻/日付	50
タイマー	50
タイマー予定表とタイマーの設定	50
タイマー削除	51
タイマー 日別概要	51
タイマーの入る時間を設定	51
クリーニング タイマー	52
保管容器に追加抽出/抽出量	52
ボタンアウト	52
エコモード	53
サマータイム	53
時刻帯	53
4.11 システム	54
アラートディスプレイ	54
ディスプレイと照明	54
浄水フィルター	56
エコモード	57
温度	57
ボタンズーム	57
保管容器	57
暖機用リンス	58
コーヒー粉分離装置	58
4.12 言語	59
4.13 エコモード	59
エコモード表示	59

4.14 USB	60
レシ` をロ`ト` する	60
飲料のマークをロ`ト` する	60
レシ` の保存	60
レシ` をPDFファイルとしてセ`ブ` する	61
カウンターのイクス`ポ`スト	61
HACCPイクス`ポ`スト	61
データのバックアップ	61
データをロ`ト` する	61
言語をロ`ト` する	61
ファームウェアの更新	61
5 カスタマーケア	62
5.1 安全上の注意事項 カスタマーケア	62
5.2 クリーニング` 頻度の概要	64
5.3 毎日のクリーニング`	65
5.3.1 システムクリーニング`	65
クリーニング` タイマー	66
5.3.2 熱湯/ス`ト`ルの清掃	67
5.3.3 コーヒー供給口のクリーニング`	67
5.4 手動クリーニング`	68
5.4.1 ド`リップ`トレ`のクリーニング`	68
5.4.2 外装のクリーニング`	68
5.4.3 操作パ`ネル`のクリーニング` (クリーンロック)	69
5.4.4 コーヒー粉ボ`ン`ジ`ョ`ナー`の清掃	69
5.4.5 コーヒー粉分離装置の清掃	70
6 HACCPクリーニング` コンセ`プト	71
7 メンテナンスと加`除`除去	73
7.1 メンテナンス	73
7.2 WMF サ`ー`ビス	73
8 メッセージ` と注意事項	74
8.1 操作上の通知	74
8.2 E`-`通知と不具合	75
9 安全性と保証	77
9.1 コーヒーマシンに対する危険	77
9.2 ガ`イ`ト`ライン	79
9.3 管理責任者の義務	80
9.4 保証請求	81
付録:テクニカルデータ	83
コーヒーマシンのテクニカルデータ	83
付録:アクセサリとス`パ`ア`パ`ーツ	87
索引	88

1 安全性



誤った使用法

- 安全上の注意事項に従わないと、大怪我をすることがあります。
- > すべての安全上の注意事項に必ず従ってください。

 **警告**

1.1 一般的な安全上の注意事項

1-2 コーヒー機に対する危険性

WMFの製品は、安全性に最大限配慮していることが大きな特徴です。以下に記載されている項目が守られていない場合は安全装置の効果が保証されません:



> 使用前に取扱説明書をよくお読みください。



- > 高温になったマシン部分には触れないでください。
- > コーヒーマシンが正しく機能しないか損傷している場合は絶対に使用しないでください。
- > 完全に組み立てられている状態でのみ、コーヒーマシンを使用してください。

 **注意**



> 内蔵されている安全装置はどのような状況においても、絶対に変更しないでください。



- > マシンを8歳未満のお子様や身体が不自由な方、知的能力の弱い方、経験や知識不足の方が使用する場合は、必ず十分な使用経験と知識をお持ちの方がそばに付き添い、正しい知識や指示でマシンを安全に使用し、発生するリスクを理解した状態でお使いください。
- > お子様にマシンで遊ばせないでください。
- > クリーニング やユーザ -メンテナンスをお子様にさせないでください。

 **注意**

安全装置が搭載されていても、コーヒーマシンの使用を誤ると危険です。怪我や健康被害のおそれを避けるために、コーヒーマシンを使用する際には以下の指示に従ってください。

 **警告**

 **感電死の危険あり**



- コーヒーマシン内の主電源電圧は生命の危険にかかわるほど高圧です。
- > マシン外装は絶対に開けないでください。
- > 絶対にねじを緩めたり、外装部分を外したりしないでください。
- > 電源ケーブルが損傷しないようにしてください。曲げたり、押しつぶしたりしないでください。
- > 破損した電源ケーブルは絶対に使用しないでください。破損した主電源ケーブルの使用は危ないので、危険を避けるために製造者またはサービス担当者により交換を受けてください。
- > 電源プラグを水や液体に浸けないでください。水や液体を電源プラグにかけないでください。プラグは常に乾燥した状態に保ってください。
- > メンテナンスや修理の前にコーヒーマシンを電源から離してください。電源から離すにはプラグを引き抜きます。メンテナンスまたは修理を行う者は電源が入っていないことを必ず目視ではっきりと確認できなければなりません。



火傷の危険/火傷のおそれあり



- 飲料供給中に、高温の液体が供給口から流れ出ます。このため、供給口や、隣接エリアの表面が高温になります。
- 加熱フェーズ[®] 中、熱湯と熱い蒸気が供給口から出てきます。
 - > 飲料の供給中は、供給口の下に触れないでください。
 - > 加熱フェーズ[®] 中は供給口の下を手で持ったり、触れたりしないようにしてください。
 - > 供給直後は供給口に触れないでください。
 - > 飲料供給する前に、必ず供給口下に適切な大きさの容器を置いてください。

 注意



指などを挟むおそれ/ 怪我のおそれあり



- コーヒーマシンの可動部で指や手を怪我するおそれがあります。
- 操作パネルを閉じるときは、手や指が挟まれるおそれがあるので注意してください。
 - > マシンの電源が入っている間、コーヒー粉ホッパーや抽出ファンネル、コーヒー粉排出口に触れてはなりません。
 - > 抽出ユニットの開口部に触れる場合には、必ず先に、コーヒーマシンの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
 - > 操作パネルを閉じるときは注意しながら行ってください。

⚠ 注意



健康被害のおそれ

- > 飲食用であり、コーヒーマシンでの使用に適した製品だけを使用してください。
- > コーヒー粉ホッパーおよびマニュアル投入口には、用途に合った材料を補充してください。

⚠ 注意

⚠ 健康被害のおそれ

- 洗剤とクリーニング 顆粒は刺激性です。
- > 洗剤のパッケージに記載されている注意事項に従ってください。
- > クリーニング 顆粒は、クリーニング 顆粒のディスプレイがブロックされている状態で、ディスプレイ上のメッセージに従って、投入してください。

⚠ 注意

**⚠ 健康被害のおそれ/
刺激・火傷のおそれあり**

- クリーニング 中に供給口から高温のクリーニング 液と熱湯が出ます。
- 高温になった液体によって皮膚が刺激を受けたり、火傷のおそれがあります。
- ドリップトレイには高温の液体がたまっていることがあります。
- > クリーニング 中は絶対に供給口の下に手などを入れないでください。
- > 洗剤は絶対に飲まないでください。

⚠ 注意



スリップの危険あり



- コーヒーマシンの誤った使用、または不具合によって水漏れが発生する恐れがあります。これらの液体によるスリップの危険があるため、注意してください。
 - > コーヒーマシンの密閉性が保たれているか、水漏れがないか、定期的にチェックしてください。
-

 **注意**

1.2 使用目的



誤った使用法



警告

- マシンを本来の目的以外で使用した場合、怪我のおそれがあります。
> コーヒーマシンは本来の使用目的のみで使用してください。
- WMF 9000 F Internal Storageは、コーヒーまたは熱湯に対応するコンテナに供給するためのものです。
- 使用するコーヒー粉は、コーヒーマシンでの処理に対応できるものでなければなりません。消費期限を過ぎた製品は加工に使用しないでください。
- 本機は業務用での使用を想定し設計されており、売店や事務所、レストランやホテル、または同様の使用環境にある専門員や教育を受けたユーザーによる使用を意図しています。
- この機器は、ホテルやレストラン、またはそのような設置場所で大容量の給仕を行う商用での使用を目的とした設置を意図しています。本機の稼働中に責任者が現場にいる場合には、本機をセルフサービスの場所に設置できます。この機器は、専門スタッフによってのみ操作可能です。

設置場所

- 本機はよく見える場所に設置してください。
- 本機は必ず水平で安定した、防水性と耐熱性を備えた敷物の上に設置すること。
- 本機洗浄に放水は使用しないこと。マシンは水しぶきがかからない場所に設置してください。
- 水ホース、スチーム噴射器、スチームクリーナー等で散布・クリーニングを行う場所には、本機を設置しないこと。

給水接続

設置場所：

- ½インチ (TW12)、主給水栓とパージフィルタ (250 μm)
- 6 L/分の時の最小水圧0.36 MPa (3.6 bar)⁽¹⁾



注意事項

圧力調整の調整ルーチンを機能させるため、機械接続部の前圧は6 L/分で2.4 bar必要です。これより圧力が低いと、圧力差が足りないため、設定値に応じて圧力調整を行うことができません。

<h3>注意事項</h3>

⁽¹⁾ 給水部セットと水フィルターを介して起きる圧力損失を考慮します。これにより、1時間あたりの最大出力に必要な機械側の水圧は6 L/分で0.2 MPa (2 bar) を確保できます。

機械側:

- 1x ½インチ (TW12) ホース-入口
- 1x ¾インチ (TW8) 洗浄給水管
- 6 L/分の時の最小水圧0.2 MPa (2 bar)、
最大水圧0.6 MPa (6 bar)
- 最大給水温度 35 °C
- 新品のコーヒーマシンおよび/または浄水フィルターに付属している
ホースセットを使用すること。使い古したホースは再使用しないでく
ださい。

周辺温度

- 環境温度: +5 °C ~ +35 °C

使用

- 本機は必ずお手元の取扱説明書に従って使用してください。取扱説明書と異なったり、取扱説明書から逸脱したりする使用は、不適切とみなされます。これにより損傷が発生しても、製造者は一切責任を負いかねます。
- **WMF 9000 F Internal Storageは、いかなる状況であってもコーヒ-または熱湯以外の何らかの液体(飲料、クリーニング)を加熱または供給するために使用してはなりません。**

衛生

- コーヒ-マシンは、支障なくカスタマーケアやメンテナンスを行える場所に、管理責任者が設置してください。

1.3 設置・使用条件



火災のおそれ/事故のおそれあり

- > テクニカルデータ の章で規定されている設置・使用条件は遵守しなければなりません。
- > マシンのプラグを差し込む前に、接地する側の電源電圧と機銘板に記載されている仕様情報が対応していることを確認してください。



警告

テクニカルデータ
▷ 83V - ジ



転倒の危険

- ドリップトレイに強い圧力や重さがかかると、コーヒーマシンが前方に倒れるおそれがあります。
- > ドリップトレイの上に、ポットを立てたままにしないようにしてください。
- > ドリップトレイに荷重をかけてはなりません。

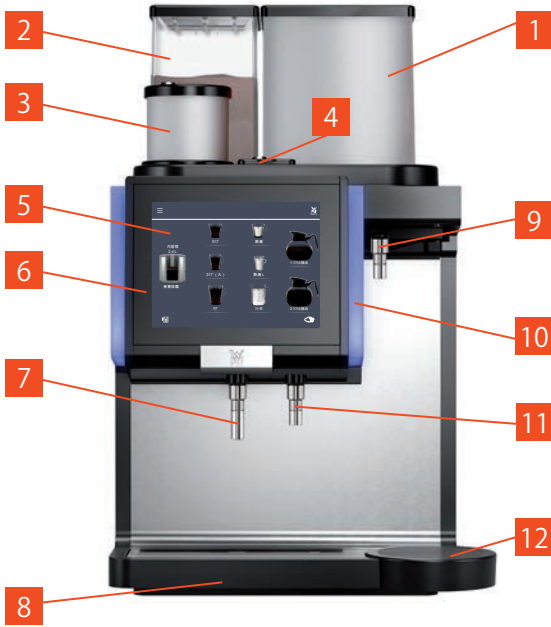


警告

電気接続、給水接続、排水接続等の、現場側での準備作業は、マシンの管理責任者が手配しなければなりません。一般的なものから国・地域で規定される法令に注意して認定設置者により設置を行ってください。WMF サービスエンジニアが担当できるのは、用意された接続部にコヒーシブマシンを接続する作業だけです。WMF サービスエンジニアによる現場での据付作業は認められていないため、エンジニアは据付の実施については責任を負いかねます。機器の接続と使用開始の作業は必ずWMF サービスが行います。

2 序章

2.1 コーヒーマシンの各部名称



供給可能表示



ホットライン

機能ライン

- 1 保管容器
- 2 コーヒー粉ホッパー
- 3 クリーニング 顆粒用コンテナ
- 4 マニュアル投入口/洗浄剤投入口
- 5 飲料ボタンと設定用タッチパネル
- 6 操作パネル
- 7 コーヒー供給口
- 8 ドリップトレイ
- 9 ホット抽出アーム
- 10 サイドライト/イベント表示
- 11 熱湯ノズル
- 12 ホット用拡張ドリップトレイ
- 13 オン/オフボタン

供給可能表示

- 14 メニューボタン (メインメニューを開く)
- 15 保管容器用メニュー (設定と残量表示)
- 16 保管容器用クイックキー (設定)
- 17 飲料キー 熱湯 (カップ、ホット)
- 18 手動取り出し
- 19 飲料キー ホットコーヒー

パネル上のボタンやボタンは設定やマシンモデルにより異なります。

ここに画像表示する機能は例です。

ソフトウェア > 30°C - 以降

取扱説明書の記号とマーク



安全上の注意事項 怪我のおそれあり

安全上の注意事項に従わないと操作ミスにつながり、軽度から重度の怪我を負うことがあります。



安全上の注意事項 怪我のおそれあり

安全上の注意事項に従わないと操作ミスにつながり、軽度の怪我を負うことがあります。



感電



スリップの危険あり



指などが挟まれるおそれ



高温の表面



物損についての注意事項

- ・ コーヒーマシンに対して
 - ・ 設置場所に対して
- > 必ず取扱説明書の指示に従ってください。



注意事項/ヒント

- ・ 安全な取り扱いのための注意事項や、操作を容易にするためのヒントが記載されています。



警告

安全性についての章を参照
▷6^{ページ}以降



注意

操作に関する安全上の注意事項
▷22^{ページ}
安全上の注意事項 カスタマーケア
▷62^{ページ}
安全性についての章を参照
▷6^{ページ}以降

重要

保証の章に注意
▷81^{ページ}以降
テクニカルサポート
▷83^{ページ}以降

注意事項

ヒント

用語集

用語	解説
•	• 箇条書き、選択オプション
*	* 各作業ステップ
斜字テキスト	コーヒーの状態で説明および/または自動ステップの解説
コーヒー粉分離装置	コーヒー粉を回収する機器
ジェット抽出	コーヒー粉を多く使用して素早く淹れるための抽出プロセス
スマート抽出	コーヒー粉を少なく使用してゆっくり淹れるための抽出プロセス
セルフサービスモード	セルフサービス
テカフェ	テカフェのコーヒー
メインコック	止水栓、アングル弁
リンス	中間的な洗浄
保管容器	保管容器
容量	例えば: 浄水フィルタ処理能力 (ℓ)
湿らし行程	香りを強く出すために、実際に抽出を行う前にコーヒーに少量の熱湯が注がれます。
硬度	°dKHで表示水の硬度は、飲料水に含まれるカルシウムの量を表します。
飲料供給	コーヒーまたは熱湯の供給 (お茶用など)

3 操作

3.1 操作に関する安全上の注意事項



火傷の危険/火傷のおそれあり



- 飲料供給中に、高温の液体が供給口から流れ出ます。このため、供給口や、隣接エリアの表面が高温になります。
- 加熱フェーズ中、熱湯と熱い蒸気が供給口から出てきます。
 - > 飲料の供給中は、供給口の下に触れないでください。
 - > 加熱フェーズ中は供給口の下を手で持ち、触れたりしないようにしてください。
 - > 供給直後は供給口に触れないでください。
 - > 飲料供給する前に、必ず供給口下に適切な大きさの容器を置いてください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷6ページ以降



健康被害のおそれ

- 飲食用であり、コーヒーマシンでの使用に適した製品だけを使用してください。
- > コーヒー粉ホッパーおよびマニュアル投入口には、用途に合った材料を補充してください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷6ページ以降

3.2 コーヒーマシンのスイッチを入れる

※ 操作パ° 祉を上 に動かす

操作パ° 祉裏の右側に、オン/オフボ° タンがあります。

※ 信号音が鳴るまでオン/オフボ° タンを押します

コーヒーマシンのスイッチが入り、加熱がスタートします。

ホットリンスが自動的に始まります。

コーヒーマシンで飲料供給の準備が完了すると、パ° 祉に供給可能と表示されます。

コーヒーマシンはタイマーを使って電源オ° にできます。



PINアクセス管理

▷ PIN 権限

48° -ジ

タイマーの入る時間を設定

▷ タイマー

51° -ジ

3.3 飲料供給

飲料供給は、保管容器のコーヒー/ス° ル、ポ° ット抽出ア° ム、または熱湯/ス° ルから行います。

希望の飲料キ° をタップ° して、設定済みの飲料の供給を開始します。

- ボ° タン点灯 = 供給可能
- ボ° タン消灯 = 供給不可/ボ° タンが無効

※ 適切なサイズ° の容器を/ス° ルの下に置きます

飲料のキャンセル

※ タッチした飲料ボ° タンをもう一度タッチ



ボ° タンリセット

▷ 操作オ° ション

43° -ジ

飲料のキャンセル

▷ 操作オ° ション

43° -ジ

3.3.1 ホット抽出

- ※ ホット抽出アームを振り出します
 - ※ 適切なサイズのホットがホット抽出アームの下にくるよう拡張トリップトレイ上に置きます
 - ※ 希望の飲料ボタンにタッチします
- 抽出は、抽出量の設定に従って行われます。
ホットの高さに応じて、ホットのノズルにエクステンションが必要な場合があります。



アクセサリとスプレッパーツ
▷87℉ -ジ



火傷のおそれ

- ホット抽出アームが完全に振り戻るか振り出していない場合は、熱い液体が吹き出て飛び散るおそれがあります。
- ▷ ホット抽出アームを常にストップ部分まで振り戻すか振り出します。



注意

安全性についての章を参照
▷6℉ -ジ以降



注意事項

- まず、ホット抽出アームを完全に振り出します。そうしてはじめて、飲料抽出を始めます。

注意事項

3.3.2 保管容器からの飲料供給

- ※ 適切なサイズの容器をコーヒーノズルの下に置きます
 - ※ 希望の飲料ボタンにタッチします
- コーヒーは、飲料キーの設定に応じて、各種分量で抽出されます。
設定可能なオプション: シングルカップ、ホット、ボトル(小)、ボトル(大)

飲料サイズ/量の設定
▷飲料
36℉ -ジ

3.4 熱湯供給

3.4.1 シングルショット/ポット/ボトル

- ※ 熱湯の供給口の下に適切なサイズのカップを配置
- ※ 熱湯のボタンをタッチする

熱湯は、飲料キーの設定に応じて、各種分量で抽出されます。設定可能なオプション: シングルカップ、ポット、ボトル(小)、ボトル(大)

熱湯供給は、ポット抽出アームのついたコーヒーマシンの場合、熱湯/ボトルから行われます。ポットが大きい場合は、ゲースネックを使用して充填可能です。



熱湯シングルショット 熱湯ポット抽出



アクセサリとスプレッド
▷ 87° -ジ

3.5 手動取り出し

手動取り出しで、計量された分量ではなく好きな量で保管容器からコーヒーを供給できます。



手動取り出し

⚠ 注意事項

- 手動取り出しで供給された分量はカウントされません。

注意事項

PINの保護

供給にPINが指定されている場合は、PINを入力すると手動取り出しを開始できます。

PINアクセス管理
▷ PIN 権限
48° -ジ

3.6 特別ボタン (オプション)

専用キーにはオプションで、言語別の選択を5種類まで設定できます。



言語の設定と別の選択
▷言語
42ページ

3.7 コーヒー粉ボートシヨナー

- コーヒーにはできるだけ適切なタイミングで補充を行います。
- コーヒーには、製品の鮮度を保つために、最大で1日分の使用量を入れます。

1種類のフィルターコーヒーに対して1つのコーヒーボートを使用します。

マニュアル投入口を介して、カプセル式のフィルターコーヒー (デカフェ) など2種類目のコーヒーを用意できます。



- 異物が混入すると、コーヒー粉ボートシヨナーが破損するおそれがあります。このような損傷は保証対象外となります。
 - > 異物がコーヒー粉ボートシヨナーに入りこまないように注意してください。

重要

保証の章に注意
▷81ページ以降

3.8 マニュアル投入

マニュアル投入口はコーヒーマシンの蓋の中央に取り付けられています。

マニュアル投入口の用途

- カフェインフリー等、異なる種類のコーヒーを淹れるとき
- 試しにコーヒーを淹れるとき
- クリーニング 顆粒のディスプレイを利用できない場合は、クリーニング 顆粒を手動で投入する方法があります



- コーヒー粉またはクリーニング 顆粒を、ディスプレイ上のメッセージに従って投入します。
- マニュアル投入の場合は、挽いたコーヒーのみを使用してください。
- インスタントコーヒーパウダーは使用しないでください。
- 挽いたコーヒーが細かすぎる場合は、使用しないでください。

重要

保証の章に注意
▷81°C以降

マニュアル投入口により挽いたコーヒーでコーヒーを淹れる (オプション)

- * マニュアル投入口を開く
- * 軽量スプーン(大)で、希望の分量のコーヒー粉を入れます(最大120 g)
- * マニュアル投入を閉じる
- * 希望の飲料ボタンにタッチします
選択した飲料が供給されます。



マニュアル投入口を介してコーヒー粉を入れ、コーヒーを淹れる方法は、ポット抽出にのみ適しています。

注意事項



3.9 コーヒーの廃棄 (オプション)

コーヒーは、湿った状態で捨てられます。洗浄水は、抽出ユニットから出てきたコーヒーを直接排水口に流します。

コーヒー粉分離装置の条件によって、コーヒーカセパレーターの設定が必要となります。

コーヒー粉分離装置はWMFサービスのみが設置可能です。

設定は、「システム」のサブメニューで行います。

- * コーヒー受けを外す
- * コーヒー受けを空にして再びセット
- * プロセスをパネル上で確認する



カセパレーターの清掃
▷ 手作業による清掃
70°C - 以下

- ! WMF 9000 F Internal Storageのコーヒー粉分離装置は、約12 kgのコーヒー粉の受けられます。
- コーヒー受けを空にする必要がある場合、パネル上にその旨の通知が表示されます。
- コーヒー受けが取り外されている間、飲料供給は不可能となります。

重要

保証の章に注意
▷ 81°C - 以下

3.10 コーヒーマシンのスイッチを切る



衛生面に注意

- コーヒーマシンの中で有害な細菌が繁殖することがあります。
- > コーヒーマシンのスイッチを切る前に必ず毎日のクリーニングを行ってください。



取扱説明書を確認

- 取扱説明書の指示に従わずにマシンを使用して発生した損傷については、保証は適用されません。

※ 操作パネルを上に動かす

操作パネル裏の右側に、ON/OFFボタンがあります。

※ 信号音が鳴るまでON/OFFボタンを短く押します

コーヒーマシンのスイッチが切れます。

※ 主電源からプラグを抜く

※ 水道のメインコックを閉める

注意

安全性についての章を参照
▷ 68°C 以降

取扱説明書に従ってコーヒーマシンをクリーニングしてください。

カスタマーケア
▷ 62°C 以降

重要

保証の章に注意
▷ 81°C 以降



PINアクセス管理
▷ PIN 権限
48°C 以降

4 ソフトウェア



- 飲料設定の際には、コーヒーマシンの操作についてのものと同様の安全上の注意事項に従ってください。
- > 「操作に関する安全上の注意事項」に従ってください。

⚠ 注意

操作に関する安全上の注意事項
▷ 22^h -ジ^o

4.1 概要

供給可能

32^h -ジ^o



ポタリイウト
▷ 操作オシヨ
43^h -ジ^o

パネル上のパッドやボタンは
設定やマシンモデルにより異なります。

機能イン供給可能表示

32^h -ジ^o



保管容器用メニュー



エコモード表示



手動取り出し

メインメニューの機能

34° -ジ° 以降



ガスターマ^クア
34° -ジ°



飲料
36° -ジ°



操作オ^ペラ^ショ^ン
41° -ジ°



イン^フォ^メー^ショ^ン
45° -ジ°



会計
46° -ジ°



PIN権^限
48° -ジ°



タイ^マー
50° -ジ°



シ^ステ^ム
54° -ジ°



言^語
59° -ジ°



エコ^モード[※]
59° -ジ°



USB
60° -ジ°

メニュー制御パ^ット[※]



メインメニュー/戻る



値/設定の確定



PIN入力



値/設定の削除



次へ/開始



飲料^テス^ト



設定の^ロード[※]



戻る



設定の^ソーブ[※]



キー^ボード[※] 表示

パ^ット[※] 補^上の通知



パ^ット[※]/エラー通知

4.2 供給可能表示

パネルの供給可能表示は、コーヒー機のお°ションや個々の設定によって異なります。

4.2.1 飲料ホ°タン

供給可能なすべての飲料ホ°タンで照明が点灯しています。

ディスプレイ上に、設定されているすべての飲料が表示されます。中央の操作パネル下にコーヒーノ°ルがあります。

使用可能な飲料のサイズは、カップ°、通常のカ°ット、保管容器のカ°ットです。

右側には、カップ°、カ°ット用の熱湯ノ°ルがあります。



例: カ°ットコーヒー-1 L 抽出キ°リーアウト
▷操作カ°ション
43°°-ジ°

4.2.2 保管容器用メニュー

* 保管容器キ°をカ°ップすると
保管容器用メニューが開きます。

左側

マ°クの上に、現在の保管容器に入っているものが表示されます。

追加抽出基準値を設定します (スライ° -):

これにより、保管容器の中身がどのくらいの残量になると追加抽出を開始するかが決められます。

目標量をスライ° -で設定します:

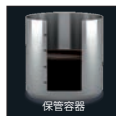
目標量は、抽出量の設定サイズ°の影響を受けます。

標準: 1 L、2 L、または4 L

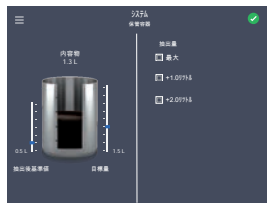
右側

ここでは、急速抽出を開始できます。

あらかじめ定義された抽出量を選択するか、保管容器が満タ°になるまで入れられます。



保管容器キ°



保管容器抽出量の設定
▷操作カ°ション
40°°-ジ°

4.2.3 機能アイコン

保管容器クイック-

保管容器クイック-を短くタップすると、保管容器用メニューが開きます。



保管容器抽出量の設定
▷ 操作オプション
42ページ

手動取り出し

手動取り出しで、計量された分量ではなく好きな量で保管容器からコーヒーを供給できます。



手動取り出し
▷ 操作オプション
43ページ

4.3 セルフサービスモードでのモード準備ディスプレイ

メッセージ表示

セルフサービスモードでは、ノズルに対応する利用可能な飲料が「モード準備ディスプレイ」に表示されます。

(左: コーヒー/右: 熱湯)

供給オプション

個別の飲料を供給するか、ポット抽出をすることも可能です。

選択オプション: カップ、ポット。

ポット抽出

ディスプレイ上で、左にスワイプすると、次のページにポット抽出の選択が表示されます。



セルフサービスモードのモード準備ディスプレイ
▷ システム
41ページ



4.4 カスタマーケア



メニュー制御パッド
 ▷概要
 31ℓ -ジ
 カスタマーケア
 ▷62ℓ -ジ 以降
 HACCPクリーニング コンセプト
 ▷71ℓ -ジ 以降

システムクリーニング

ここでは、システムクリーニングの後にコーヒーマシンの電源を切るかを選択します。
 選択オプション:「電源を切る」「電源を切らない」



システムクリーニング
 ▷カスタマーケア
 65ℓ -ジ 以降

クリーンロック

※ **クリーンロック** をタッチする
 15秒間のカウントダウンが始まります。
 この間にタッチパネルのクリーニングを行ってください。
 最後にタッチしてから15秒後に、タッチパネルが再び有効になります。



操作パネルクリーニング
 ▷カスタマーケア
 69ℓ -ジ 以降

説明

コーヒーマシンとWMF ホットの清掃に関する動画説明。



コーヒー粉分離装置

コーヒー粉分離装置は週に一度清掃が必要です。


コーヒー粉分離装置

コーヒー粉分離装置の清掃
▷ カスタマーケア
70° -ジ

設定


設定

スイッチオフリス

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 有効

有効 コーヒーマシンの電源を切ると、スイッチオフリスが実行されます。

4.5 飲料

概要

供給テスト

大半の飲料設定では、レシ°を保存する前に新しい設定で飲料供給テストを行えるようになっています。

- ※ 設定を希望通り変更
 - ※ 「供給テスト」パッドをタッチ
- 新しい設定値に従って飲料が供給されます。
- ※ 飲料が希望の通りであれば、「レシ°を保存する」のマークをタップします
- レシ°が保存されます。



例: 1リットル抽出

レシ°の保存

変更されたレシ°が保存されます。



レシ°をロードする

保存されているレシ°が飲料ポタンにロードされます。

- ※ 飲料ポタンにタッチ
 - ※ 「レシ°をロードする」パッドをタッチ
- サブメニューが開きます。
- ※ 希望するレシ°をマークする
 - ※ 「レシ°の保存」パッドをタッチ
- 飲料ポタンに新しく選択したレシ°が割り当てられます。



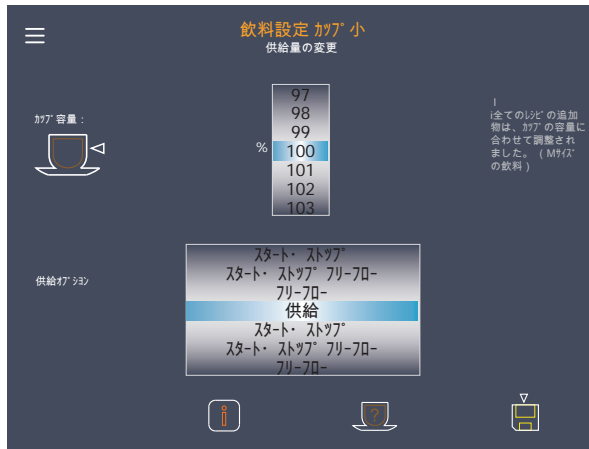
容量と供給オプション



カップ容量

希望するカップ容量を設定します。レベルは適切に調節されます。

100%はこれまで保存されている値に相当します。



供給オプション

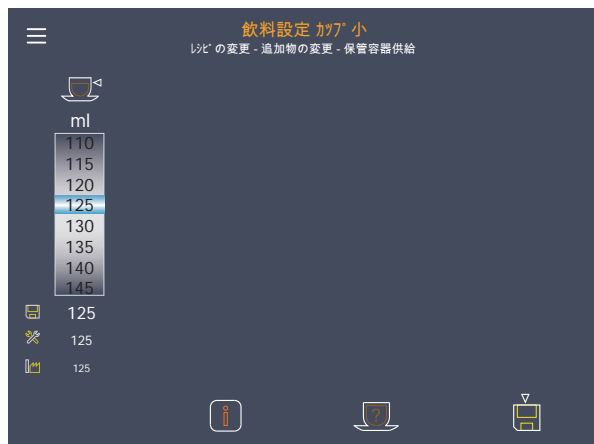
- スタート・ストップ**
 供給は設定量に達するまで行われます。途中で供給を中止するには、ボタンをもう一度押してください。
- 供給**
 設定した量が供給されます。供給オプションを熱湯にも使用可能です。
- フリーフロー**
 熱湯は、キーを押している間供給されます。
- スタート・ストップ フリーフロー**
 ボタンを軽く押すとスタート・ストップ 供給となります。ボタンを1秒間以上押すと、フリーフロー供給が開始されます。

供給オプションは熱湯に設置可能です。

レベルの変更



メニュー制御パネル
▷ 概要
31℃ - ジ



選択した追加オプションの設定オプションが表示されます。
保存されたデータと現在のデータが表示されます。



現在の値



サービスエンジニアによって保存された値



工場出荷時の設定値

水量

単位: ミリリットル (ml)



テキストと画像



メニュー制御パッド
▷概要
31ページ

テキストと画像

ここで飲料の名称と飲料ホンの画像を設定します。
キーボードパッドにタッチしてキーボードを有効にします。

個別の飲料画像を読み込む
▷USB
60ページ

備考

飲料についてのメモはここに保存できます。

ホンの入れ替え

2つの飲料ホンが入れ替わります。

- * 飲料ホンにタッチ
- * 「ホンの入れ替え」パッドをタッチ
- * 入れ替える飲料ホンにタッチ



保管容器の抽出量を設定する



保管容器用メニュー
モード準備が完了し
30° -ジ°



ここでは、保管容器の抽出量を決めて、保存でき
ます。

標準:抽出量 1 L、2 L、4 L

決められた抽出量は、保管容器用メニューで急速抽出
の選択オプションとして使用できます。

4.6 操作オプション



操作要素

「モード準備ディスプレイ」で一部の機能を無効にして操作することができます。無効にしておくと、この機能と該当するパッドが画面に表示されません。

セルフサービスモード（セルフサービス）

機能を無効にして、セルフサービスモードで操作することができます。この無効になっているパッドとその機能は、セルフサービスモードでは表示されません。

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 無効

セルフサービスモードが有効になっている場合、以下の設定が同時に設定されます。

- ・ メニューパッド: 遅延
- ・ エラー表示: 記号
- ・ 飲料のキャンセル: 無効

メニューパッド

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 有効

有効 メニューパッドにタッチすると、メニューパッドが直ちに反応します。

無効 何も無いところを二回押すとメインメニューに戻ります。

カラー表示

カラーはパネルのヘッダーにおいて、様々な色で通知されます。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

有効 カラーはテキストでパネル上に表示されます。

言語プロファイル選択

飲料設定について、言語と国旗のプロファイル選択を可能にするかどうか、ここで設定します。「言語プロファイル選択」をここで有効にできます。

言語のプロファイル選択
▷ 操作アイテム
59ページ

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

保管容器用メニュー

「保管容器用メニュー」キーは、現在の残量を表示します。このパッドをタップすると、保管容器用メニューが開きます。



保管容器用メニュー
▷ モード準備ディスプレイ
30ページ

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

有効 保管容器用メニューのパッドは、「モード準備ディスプレイ」上の機能メニューに表示されます。

保管容器手取り出し

「保管容器の手動取り出し」が有効になっていると、計量された分量ではなく好きな量で保管容器からコーヒーを供給できます。機能は保護されており、PINを使ってのみ、変更可能です。

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 無効

有効 「保管容器の手動取り出し」のボタンは、「モード準備ディスプレイ」上の機能メニューに表示されます。



保管容器手動取り出し
▷モード準備ディスプレイ
30° -ジ

ボタンリフト

種々の標準ボタンリフトがここに保存されており、選択できるようになっています。



ボタンリフト

飲料のキャンセル

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 無効

有効 飲料ボタンを再度押すと、飲料供給を中断できます。



飲料のキャンセル

□



メーカーの□

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

有効 メーカー□ は、モード準備ディスプレイの右上に表示されます。

お客様の□

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

有効 オプションが「有効」に設定されており顧客□が読み込まれている場合、顧客□は運転準備完了時にヘッドライン中央に表示されます。自動販売機と接続されている場合、顧客□が左に表示されます。この場合、□を両方表示することはできません。

お客様の□をロード

顧客□入りの USB スティックを挿し込みます。顧客□を読み込みます。

顧客□ (大)

□は最大 80ピクセルまで許容されます。それより大きい□は自動でこの大きさにサイズ変更されます。

4.7 インフォメーション

インフォメーションメニューの選択オプションは以下の通りです。



前回の抽出

前回の抽出に関するインフォメーション。



タイマー

1週間のタイマー設定が呼び出されます。ここにはすべてのスイッチオン・オフ時刻が表示されます。



サービス

WMF サービスの連絡先。
コーヒーマシンのシリアルナンバー。



カスタマーケア

コーヒーマシンのプログラムから行ったクリーニングとカスタマーケアの記録が表示されます。



浄水フィルタと加糖除去

浄水フィルタの残り容量と次回加糖抜ききのタイミングのインフォメーションが表示されます。

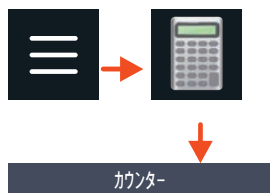


プロトコル

コーヒーマシン操作中やクリーニング中のイベントとエラーのジャーナル。



4.8 会計



カウンター

供給されたそれぞれの飲料のカウンターと合計飲料数が表示されます。

ジャーナルはUSB出力によって読みだすことができます。

会計		カウンター		合計	
ホットコーヒー	1	2	3	4	
ホット	2	2	2	2	
マグ	1	1	1	1	
カップ	2	2	2	2	


標準設定

カウンター 1 = 1日のカウンター

カウンター 2 = 1週間のカウンター

カウンター 3 = 1ヶ月のカウンター

カウンター 4 = 1年のカウンター

 それぞれのカウンターはリセット可能です。

ヒント

自動販売機

自動販売機として使用する際の取扱説明書を参照してください。

外部会計

ウィータ-会計取扱説明書を参照してください。

無料設定

無料設定は請求単位オプションと併せて使用可能です。


無料設定

すべて無料

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効 無効

飲料は無料

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効 無効

ディスプレイ表示

「すべて割引」が有効の設定になっている場合、ここにテキストを表示できます。(例:「割引」)。入力されたテキストはヘッドラインに表示されます。

飲料ボタン表示

「すべて割引」が有効の設定になっている場合、ここに飲料ボタン用テキストを表示できます。

正味会計

請求オプション。このためにバーコードをスキャンして、サーバーを介して飲料供給を許可する必要があります。




リクエストタイムアウト

リクエストがあつてから、飲料が選択されなかった場合に許可が破棄される設定待ち時間。

IPアドレス

関連IPアドレス

4.9 PIN権限

下記のエリアではPINコードを設定できます。

- クリーニング
- 設定
- 会計




PINには序列が設けられています。

例えば、設定PINはクリーニングPINも兼ねますが、会計PINとしては無効です。

PINを割り当てないエリアは、PIN入力なしでアクセス可能です。PINを割り当てたレベルには、PIN入力なしではアクセスできません。

クリーニング PIN


有効なPIN入力すると、次の項目にアクセスできます：

 カスタマーケア




設定PIN

有効なPIN入力すると、次の項目にアクセスできます：

 カスタマーケア

 飲料

 操作オプション

 会計（「削除」なし）

 タイマー

 システム


 言語

 USB




会計PIN

有効なPIN入力すると、次の項目にアクセスできます：

 カスタマーケア

 飲料

 操作オプション

 会計（「削除」あり）

 PIN

 タイマー

 システム

 言語

 USB



会計 PIN を使用して他の PIN 番号を両方変更できます。会計 PIN を忘れた場合、サービス担当者によってのみ PIN をリセット可能です。

新しいPINを入力

アクセス許可 PIN が割り当てられたら、ここに PIN 番号を入力して新しい PIN を発行します。



4.10 タイマー

時刻/日付

ここでは現在の日付と時刻を設定します。

タイマー

ここで、タイマー機能をオン・オフを切り替えられます。

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 有効

有効 タイマーの切り替え時間が有効になっています。

無効 タイマーの切り替え時間は作動しません。

タイマー予定表とタイマーの設定

すべてのオン・オフ時刻の概要。



スイッチを入れる時間の変更は日別表示でのみ可能です。

タイマー削除

削除マークで、あらかじめマーク^gしていたタイマーを削除できます。



タイマー- 日別概要

日間・週間予定表を切り替えます。日別概要には、当日のスイッチを入れる時刻が表示されます。



タイマーの入る時間を設定

タイマーを介してスイッチを入れられる以下の機能があります。

- ボタンレイアウト
- エコモード
- オン/オフタイマー
- クリーニングタイマー
- 分量の事前設定



スイッチを入れる時間の変更は過去に遡って適用はされず、変更を行った日時以降のスイッチを入れる時間にのみ適用されます。

注意事項

- * 希望するタイマーの機能を選択します
- * 1日または複数の日にちを選択します
- * タイマースイッチ時間を設定します

スイッチを入れる時間はあらかじめ選択された日にちに対して設定されます。確定後は設定された切り替え時間による週間予定表が表示されます。個々の時刻はこの週間予定表の中で任意に変更できます。

クリーニング タイマー

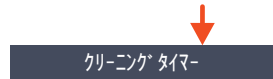
選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

有効 タイマーを介して、自動システムクリーニングを開始できます。

システムクリーニングをタイマーで開始するための前提条件:

- ホットのノズルを押し込む必要があります。
- タイマークリーニングは、セルフサービスモードの時間外にしなければなりません。



方法やその他の問い合わせ
▷ ケア
▷ タイマークリーニング
66ページ

保管容器に追加抽出/抽出量

抽出量の事前選択を必要に応じて、タイマーで設定できます。

たとえば、10時までには4 Lの抽出、その後、10時以降は2 L抽出など。



ホットリフト

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

有効 ホットリフトをタイマーによって自動的に割り当てることができます。



エコート

ここでは、エコートのタイマー時間を設定可能にするかを設定します。

設定は、タイマーでエコートが有効になっていない場合にのみ行うことができます。

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 無効


エコート

サマ-タイム

ここでは、サマ-タイムに自動で切り替えるかを設定できます。

テレメトリモジュールが取り付けられていなければ、メニューを利用できません。

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 無効


サマ-タイム

時刻帯

ここではタイムゾーンを設定できます。


時刻帯

4.11 システム



プログラシテ イスレ

プログラシテ イスレ

選択オプション: ライン、サークル、オ

標準値: ライン

ディスプレイと照明



ディスプレイと照明

照明

点灯色はここで設定します。
カーサークルの三角形で希望の色を設定してください。
RGB数値による色の設定も可能です。

その他の選択オプション:

- 色の変更 ゆっくり
- 色の変更 標準
- 色の変更 速く
- オ

ただちに現在の設定が表示されます。



供給可能な場合の照明

- 側板 標準色

イベントの表示 (通知)

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

有効 メッセージ 表示中、照明の調整ができます。

例: メッセージ「コーヒ-粉が空」。

メッセージ (イベント)の照明

- イベントカラー側板

パ° 衤の照度

パ° 衤の照度はここで設定します。

テ° イス° レ照度は自動的に減少

選択オ° ション: • 有効 • 無効

標準値: 有効

有効 照度減少が「有効」になっていると、飲料供給から5分後にパ° 衤照度が自動的に減少します。

パ° 衤の照度が暗くなっている状態でパ° 衤に一度タッチすると、再び選択された照度に戻ります。その後もう一度飲料供給ボタンにタッチすると、その飲料の供給が始まります。

タッチキャリブレーション

タッチパ° 衤のキャリブレーションを新たに行います。

パ° 衤の背景

タッチパ° 衤のカラ-テ° サ° インを設定できます。

- メインパ° -ジ° の色
- その他のパ° -ジ° の色

飲料:文字 + 色

ここでは、文字サイズ° と文字の色を変更するかを設定できます。

選択オ° ション: • 有効 • 無効

標準値: 無効

浄水フィルター

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効 無効

有効 浄水フィルターが取り付けられています。フィルターの容量と水の硬度の入力が必要です。

フィルター容量


フィルター範囲 (単位: リットル) はここで入力します。

硬度の計測

測定した水の硬度を $^{\circ}$ dKH単位で入力します。

※ 飲料水の硬度は、水道事業者に照会するか、付属品にあるWMF 炭酸硬度テスト (説明書付き) を使用して検出する

炭酸硬度テストキットはアクセサリと共に送られます。

 水の硬度を不適切に設定してコーヒーマシンを運転すると、多くの加圧が発生し、バルブの密閉性が失われるおそれがあります。これにより損害が生じても保証は適用されません。

総硬度の計測

ここには総硬度を入力します。



浄水フィルター

注意事項

弊社は原則浄水フィルターの使用を推奨しております。適切な浄水フィルターの選択につきましては、担当のWMFサービスパートナーがご相談に応じます。

注意事項

ソフト

ここではソフトを有効にできます。

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 無効



ソフト

▷ソフト
59℃ -ジ

スイッチ

オプションなし 30 min/60 min/90 min/120 min/
150 min/180 min 不可。

標準値: いいえ

温度

水の設定水温を表示。



ボタン

ボタンを有効にすると、選択した飲料ボタンが拡大表示されます。

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 無効



ボタン

保管容器

ここでは、保管容器の一般設定が可能です。



保管容器

保管容器設定

- ・ 抽出後基準値
- ・ 4 Lまでの目標量
- ・ 抽出量 急速抽出
最大、+1 L、+2 L、+4 L

保管時間の設定

ここでは、保管容器で保管する時間を設定できません。設定した時間が経過すると、保管容器はコーヒーシンの排水口を通して中身を空にします。保管時間は最大240分です。



空にした後の自動後抽出

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

有効 ここでは、空にした後に自動で追加抽出をするか設定できます。

暖機用リンス

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

有効 最後の飲料供給から、設定した休止時間経過後、暖機用リンスが行われます。
休止時間: 17または3分。

暖機用リンス

コーヒー粉分離装置

ここでは、コーヒー粉分離装置を使用するか、どの量までカスを受けるか設定できます。さらに、リンスサイクルや抽出休止も設定できます。

コーヒー粉分離装置

▷ コーヒーカスの廃棄
28[°] - 32[°]

4.12 言語

パネル上で使用する言語を設定します。
使用できる言語が英語で表示されます。



4.13 エコモード

エコモードが「有効」に設定されている場合、最後の飲料供給後、ボイラ温度は10 °Kに下がります。
飲料ボタンは点灯したままです。
コーヒー用の飲料の準備をすぐに開始できます。



▷ エコモード
57°C - ジ

エコモード

選択オプション: ・ 水 ・ 奶 ・ タイマー
標準値: 水



ここではエコモードを有効にできます。

エコモード 表示

供給可能表示では、ヘッド - にエコモードのアイコンが表示されます。
2つのステータスがあります。



エコモード「有効」

コーヒーマシンは現在温度低下段階にあります。



イコモード「レディ」

イコモードは待機時間に応じて制御され、最後に飲料供給してから10分後に有効になります。



クイックスタート

イコモード設定が「有効」である場合には、イコモードのアイコンが供給可能表示に表示されます。



アイコンにタッチする場合、イコモードがすぐに有効になります。

アイコンが「有効」に切り替わります。

4.14 USB

USB接続口からはデータの交換が可能です。USB接続口は操作パネル裏側の左上の、カバーの背後にあります。



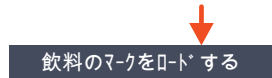
レシピをロードする

保存されたレシピはここからロードします。



飲料のマークをロードする

USBスティックから飲料の写真またはマークを読み込みます。



レシピの保存

レシピをコーヒーマシンからUSBに転送します。



レシピをPDFファイルとしてセーブする

レシピ資料。



レシピをPDFファイルとして
セーブする

カウンターのエクスポート

カウンターをUSBへ転送してください。



カウンターのエクスポート

HACCPエクスポート

実行されたクリーニングはプロトコルに記録され、ここにHACCP実施の証明としてエクスポートされます。



HACCPエクスポート

データのバックアップ

マシンのデータ、飲料のデータ等の設定データはここで保存します。



データのバックアップ

データをロードする

マシンのデータ、飲料のデータ等の保存されているデータはここでロードします。
(PINで保護可能)



データをロードする

言語をロードする

利用できる場合には、他のパシ言語をUSBスティックからコヒーマシにロードします。



言語をロードする

ファームウェアの更新

サービスエンジニア専用。



ファームウェアの更新

5 かたマ-ケ7

5.1 安全上の注意事項 かたマ-ケ7

コーヒーマシンが正常に作動し、コーヒ-の質品質をいつでも最適なものにするためには、定期的なクリーニングが不可欠となります。



健康被害のおそれ/衛生面

- > 全ての衛生面の注意事項に従ってください。
- > HACCPクリーニングコンセプトに従ってください。



注意

安全性についての章を参照
▷6ページ以降



健康被害のおそれ/衛生面

- 使用停止中のコーヒーマシンの中で細菌が繁殖する恐れがあります。
- > 数日間運転を停止する場合、運転停止前と運転再開時にすべてのクリーニングを行ってください。



注意

安全性についての章を参照
▷6ページ以降



健康被害のおそれ/衛生面

- すべての洗剤はクリーニングプログラム用に最適に調整されています。
- > WMFのクリーニング剤およびカルシウム除去剤だけを使用してください。



注意

安全性についての章を参照
▷6ページ以降



健康被害のおそれ/ 刺激・火傷のおそれあり



- クリーニング中に供給口から高温のクリーニング液と熱湯が出ます。
- 高温になった液体によって皮膚が刺激を受けたり、火傷のおそれがあります。
- > クリーニング中は絶対に供給口の下に手などを入れないでください。
- > コーヒーのノズル下にスプラッシュガードを設置します。
- > 操作パネルのクリーニング前に、コーヒーマシンをオフにし、飲料が不意に供給されないようにします。
- > 洗剤は絶対に飲まないでください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷6ページの以降

5.2 クリーニング 頻度の概要

カスタマーケア						
毎日	毎週	定期的	メッセージ	オプション		
X			X		システムクリーニング	▷65 [°] -ジ
X				X	クリーニング タイマー	▷66 [°] -ジ
X					熱湯ノズルの清掃	▷67 [°] -ジ
X					コーヒー供給口のクリーニング	▷67 [°] -ジ
		X		X	ドリフトレのクリーニング	▷68 [°] -ジ
		X			外装のクリーニング	▷68 [°] -ジ
		X			操作パネルの清掃	▷69 [°] -ジ
		X			コーヒー粉ホーシナーの清掃	▷69 [°] -ジ
X			X		コーヒー粉分離装置の清掃	▷70 [°] -ジ



▷65[°] -ジ

▷66[°] -ジ

▷67[°] -ジ

▷67[°] -ジ

▷68[°] -ジ

▷68[°] -ジ

▷69[°] -ジ

▷69[°] -ジ

▷70[°] -ジ

毎日 =最低毎日1回、必要に応じて随時

毎週 =毎週1回クリーニング

定期的 =必要に応じて定期的を実施

メッセージ = パネルでの通知後

オプション =オプション(装備により異なる)

5.3 毎日のクリーニング



健康被害のおそれ/ 刺激・火傷のおそれあり



- ・ 振り戻されたポットノズルがないと、熱湯やクリーニング液が制御されず出てきます。
- > どのクリーニングプログラムを行う際も、ポットノズルは振り戻しておくようにしてください!

注意

安全性についての章を参照
▷ 68°C 以降

5.3.1 システムクリーニング

クリーニングプログラムはディスプレイを介して、マシンクリーニング中工程ごとに進みます。



- ・ クリーニングプログラム実施中は、コーヒーマシンに抽出アームをつなげておく必要があります。これは、タイマークリーニングを行う際に特に重要な注意事項です。
- ・ クリーニング中はスプラッシュガードを必ず装着してください。プログラムがディスプレイに表示されます。
- ・ クリーニング顆粒ディスプレイセンサーがロックされているばあい、クリーニング顆粒 (120粒/45 g) をマニュアル投入で入れる必要があります。
- ・ クリーニング顆粒が足りない場合、マシンは3回目のシステムクリーニングのメッセージが表示された後にロックされます。

重要

タイマーの章
▷ 50°C 以降

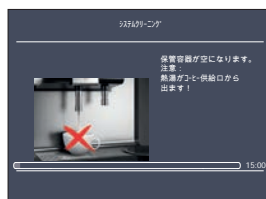
クリーニング タイマー

システムクリーニングは、タイマーで自動的に開始、実行可能です。

- ホットのノズルを押し込む必要があります
クリーニング中に、ホット抽出アームがクリーニング位置から動くと、クリーニングは停止します。ホット抽出アームがクリーニング位置に戻されると、クリーニングを再開します。
- タイマークリーニングは、セルフサービスモードの時間外にしなければなりません。
- スプレッシャーノズルを装着する必要があります。
クリーニングはタイマープログラムで入力されたサイクル時間に開始します。



タイマークリーニング中、LEDサイドライトが点滅します。
タイマークリーニング中、ディスプレイに警告が表示されます。
ノズルからクリーニング液が排出される直前に、信号音が鳴り始めます。



ヒント

- **スプレッシャーノズルを下におく**
このテキストは、注意事項としてまたはプロンプトとしてのみ表示可能です。
- **加糖/コーヒー粉分離装置を空にする**
このテキストは、注意事項としてまたはプロンプトとしてのみ表示可能です。
- **ホット抽出アーム**
この注意事項は、ホット抽出アームがクリーニング位置にない場合にのみ表示されます。

5.3.2 熱湯ノズルの清掃

熱湯ノズルの徹底的な清掃。この手作業による清掃での正しい排水については、クリーニング手順で詳しく説明されています。

- * 熱湯ノズルを引き抜き、エアレーターノズルを外す
- * 30分ほど、洗浄液に浸す
- * きれいな水ですすぐ



火傷のおそれ

- 誤って飲料が供給されてしまうと、怪我のおそれがあります。
- > 前もってコーヒーマシンのスイッチを切ります。

注意

安全性についての章を参照
▷6ページ以降

5.3.3 コーヒー供給口のクリーニング

コーヒーノズルは、念入りに清掃が必要です。この手作業による清掃での正しい排水については、クリーニング手順で詳しく説明されています。

- * コーヒーノズルを引き抜く
- * コーヒーノズルを30分ほど、洗浄液に浸す
- * 冷水で入念に洗浄する



火傷のおそれ

- 飲料が誤って出てくることがあります。
- > クリーニングを行う前に、コーヒーマシンのスイッチを切り、誤って飲料が供給されないようにします。

注意

安全性についての章を参照
▷6ページ以降

5.4 手動クリーニング

WMFカスターケア® ログラム用の注
文番号
▷ アクセサリーとスプレッ
87A° -ジ°

5.4.1 ドリップトレイのクリーニング



火傷のおそれ



- ドリップトレイには高温の液体がたまっていることがあります。
- > ドリップトレイは慎重に動かしてください。
- > 再び設置するときには、水が不意にこぼれないように注意してください。

ドリップトレイは、定期的に清掃が必要です。不具合なく動作させるため、排水口に汚れやコーヒーが残らないようにしてください。

- * ドリップグリッドを慎重に取り外し、清掃する
- * ドリップトレイを湿った布で拭く
- * ドリップグリッドを付け直す

注意

安全性についての章を参照
▷ 6A° -ジ° 以降



5.4.2 外装のクリーニング



- クリーニング中に、内部表面に傷をつけるおそれがあります。
- > 研磨剤の類はクリーニングで使用しないでください。
- > 刺激の強い洗剤は使わないでください。
- > クリーニングには柔らかい布を使用してください。
- > 湿らせたマイクロファイバークロスの使用をお勧めします。

重要

保証の章に注意
▷ 81A° -ジ° 以降

金属表面(マット加工)の手入れには、WMF Purargan®
クリナーの使用をお奨めします。

5.4.3 操作パ° 衤クリーニング° (クリーンロック)

* **クリーンロック** をタッチする

15秒間のカウントダウンが始まります。

この間にタッチパ° 衤のクリーニング° を行ってください。

最後にタッチしてから15秒後に、タッチパ° 衤が再び有効になります。



火傷のおそれ

- 誤って飲料供給が開始されてしまうと、怪我するおそれがあります。
- > クリーニング° の前には、必ず「クリーンロック」でタッチパ° 衤をロックしてください。

注意

安全性についての章を参照
▷ 68° -ジ° 以降



- クリーニング° 中にパ° 衤表面に傷をつけるおそれがあります。
- > パ° 衤は必ず湿らせた布でクリーニング° してください。洗剤は使用しないでください。
- > クリーニング° には柔らかい布を使用してください。
- > 湿らせたマイクロファイバ° -クロスの使用をお勧めします。

重要

保証の章に注意
▷ 81° -ジ° 以降

5.4.4 コーヒー粉° -シヨナーの清掃



指などを挟むおそれ/ 怪我のおそれあり



- コーヒーマシンの可動部で指や手を怪我するおそれがあります。
- > 抽出ユニットの開口部に触れる場合には、必ず先に、コーヒーマシンの電源を切り、電源プラグ° をコンセントから抜いてください。

注意



- > コーヒー粉° -シヨナーは、最大70 °Cの食器洗浄機で洗浄可能です。

重要

コーヒー粉ホッパーは必要に応じて、一定の間隔を空けてクリーニングが可能です。少なくとも3か月に1度か、または汚れがひどくなってきたらクリーニングすることをおすすめします。

- * コーヒーマシンのスイッチを切ります
- * 主電源からプラグを抜く
- * コーヒー粉ホッパーを完全に空にする
- * マニュアル投入のカップフラップの下にあるピンを後ろに下げる

コーヒー粉ホッパーのロックが解除されます。

- * コーヒー粉ホッパーを持ち上げて取り外す
- * コーヒー粉ホッパーを湿った布でよく拭く
- * コーヒー粉ホッパーを完全に乾かす
- * コーヒー粉ホッパーに補充し、元の位置に戻す
- * マニュアル投入のカップフラップの下にあるピンを前に戻す

コーヒー粉ホッパーがロックされます。



ピンを動かして、コーヒー粉ホッパーのロック/ロック解除を行います。



5.4.5 コーヒー粉分離装置の清掃

コーヒー粉分離装置の清掃清掃します。クリーニングプログラムはディスプレイを介して、工程ごとにクリーニングを行います。

- * カタを取り外し、空にする
- * シーブのねじを外し、きれいな水で洗う
- * 前脱水のインサートを取り外し、きれいな水ですすぐ
- * 前脱水のインサートを取り付ける
- * シーブをカタに取り付けて、ねじを締める
- * コーヒーカ受けをセットする



前脱水のインサート

6 HACCPクリーニングコンセプト



飲食店経営者には、来店するお客様が健康被害のおそれにさらされないことがないように、提供する食品への注意が法的に義務付けられています。危険の認識・判定のため、HACCP (Hazard Analysis Critical Control Points) クリーニングコンセプトの導入が必要になります。このマシンの使用場所でリスク分析を行うようにしてください。分析の目的は、食品衛生面で危険な個所の確認と解消にあります。そのためにはモニター・検査工程を定め、実施する必要があります。設置状態が適切で、加圧・ケアやメンテナンス、クリーニングが正しく行われている場合、WMFコーヒーマシンは上記の条件を満たした状態となっています。ケアとクリーニングが決められたとおりに実施されていない場合は、飲料の供給は食品衛生の観点から危険なポイントになります。クリーニングの間隔は、取扱説明書、クリーニング手順、クリーニング計画に説明してある通りに守る必要があります。

「1997年8月5日 食品衛生指令」

日常のクリーニング評価に当社のHACCPクリーニングコンセプトをご活用ください。

HACCP輸出
▷61ページ



インフォメーションパッド  からは前回のクリーニングのプロトコルを呼び出すことができます。
USBパッド  から、HACCPジャーナルをエクスポートできます。

ヒント

HACCPクリーニングコンセプト

月 年

クリーニングステップ：

1. 洗浄/クリーニングの実行
 ▷取扱説明書(77の章)
 熱湯/スールのクリーニング
2. 熱湯/スールのクリーニング
 ▷取扱説明書(77の章)
3. コーヒー粉ホッパーの定期的な清掃
 ▷取扱説明書(77の章)
4. コーヒー熱湯/スールの定期的な清掃
 ▷取扱説明書(77の章)

□	クリーニングステップ				署名
	1	2	3	4	
1.					
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					
11.					
12.					
13.					
14.					
15.					
16.					

□	クリーニングステップ				署名
	1	2	3	4	
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					
31.					

7 メンテナンスと加粉除去

本コーヒーマシンは業務用のため、定期的にメンテナンスと加粉除去作業が必要となりますのでご注意ください。

メンテナンスの時期はコーヒーマシンの使用期間により決まり、パネルに通知されます。WMF サービスによるメンテナンスでは、同時に抽出装置の加粉除去も実施されます。

コーヒーマシンは通知表示後も使用できますが、コーヒーマシンの機能異常や二次的な損傷を防ぐためにもお客様自ら早めにメンテナンスを行うか、メンテナンス作業の実施を依頼してください。

7.1 メンテナンス

パネル上に通知が表示されたあとのメンテナンスは、WMF サービスまたは必要なトレーニングを受けた作業員以外は行わないでください。

サービス・メンテナンス通知
▶メッセージと注意事項
74ページ

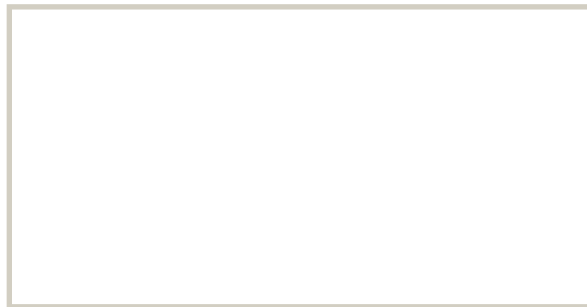
7.2 WMF サービス

WMF サービスにつきましては、お近くの修理センターが不明な場合は下記にお問い合わせください。

WMF Group GmbH
Eberhardstraße 35
D-73312 Geislingen (Steige)

重要!


メンテナンス、修理などにつきましてはお近くのWMF サービスまでお問い合わせください。電話番号はコーヒーマシンに貼ったラベルと納品書に記載されています。



8 メッセージと注意事項

8.1 操作上の通知

コーヒー粉を補充する

- ※ コーヒー粉ホッパーへの補充(表示に応じて)
- ※ 確認:
 - ・ コーヒー粉ホッパーのロックは解除されていますか?
▷ 加圧マーク
 - ・ コーヒー粉が滑り落ちない
- ※ 大きめのスプーンでかき回して  で確定する

給水してください

- ※ 水道の栓を開き、確定する

コーヒー粉分離装置をかかにする

- ※ コーヒー粉分離装置を空にする

コーヒー粉分離装置の加圧がない

- ※ コーヒー加受けを再び正しく設置する

浄水フィルタを交換

- ※ WMF サービスに連絡
浄水フィルタの取扱説明書を参照してください。

エラーは本取扱説明書で確認する

エラー番号の表示

▷ エラー通知と不具合

WMF サービスに連絡

エラー番号の表示

▷ エラー通知と不具合

サービスメッセージ

この通知がパネルに表示されると、サービスメンテナンスが必要です。

- ※ WMF サービスに連絡

サービス通知は注意事項です。通常、コーヒーマシンはそのままお使いいただけます。

8.2 エラー通知と不具合

エラー通知が表示されたときや不具合発生時の基本的な手順は次の通りです。


- * コーヒーマシンのスイッチを切り、数秒後もう一度スイッチを入れる
- * エラーが発生したときの操作を再試行

多くの場合、これによって不具合が解消され、正常に作動させることができます。

この操作で解消できなかった場合:エラー表示またはエラー番号をもとに以下の表を参照して対応してください。

それでも解消できないか表示されたエラーが記載されていない場合は、WMF サービスにご連絡ください。

通知の中には個別機能が停止するものがあります。この場合、飲料ボタンの照明が消えます。飲料ボタンが点灯している飲料では引き続き供給が可能です。

お使いのWMF 9000 F Internal Storageは、診断プログラムが搭載されています。発生したエラーはパネル上に表示されます。表示されるエラー通知は、原因の一つに主電源の異常も考えられます。現在エラーが発生しているか、管理責任者への注意事項がある場合、パネル上  が表示されます。

- *  をタッチする
エラー通知およびエラー番号が表示されます。

注意事項



コーヒーマシンはオン/オフボタンを押してから約 1 秒後に反応し、机になります。
不具合の解消のため(ソフトウェアのフリーズ など)、オン/オフボタンを長押しして制御システムの電源を切ってください。次に、コーヒーマシンの電源を入れます。

エラー番号	エラーの内容	対応
9039	ボイラー： 温度過昇	<ul style="list-style-type: none"> * コーヒーマシンのスイッチを切り、冷めてから再びスイッチを入れる * エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡
9041	ボイラー： 加熱時間エラー	<ul style="list-style-type: none"> * コーヒーマシンのスイッチを切り、再び入れる * エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡
9055	強制クリーニング	<ul style="list-style-type: none"> * コーヒーマシンのクリーニングが必要です <small>▷ケアシステムクリーニング、65℃ - ジ</small> * エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡
9063	コーヒー粉ホッパーが空	* コーヒー粉ホッパーにコーヒー粉を補充する
9069	コーヒー粉分離装置の ガスケットが満タ	* ガスケットを空にする必要があります
9076	水圧不足	<ul style="list-style-type: none"> * 給水してください * 水圧を安定させる
9133	クリーニング 顆粒 ディスプレイが空	* クリーニング 顆粒ディスプレイにクリーニング 顆粒を補充する

9 安全性と保証

9.1 コーヒーマシンに対する危険



取扱説明書を確認

注意事項に従わずに起きた損傷については、保証対象外となります。
設置・使用条件を守ってください。

設置場所

- 設置場所には必ず乾燥した水の飛び散らない場所を選んでください。
- コーヒーマシンでは、常に多少の結露ないしは水が出てきます。
 - > コーヒーマシンを屋外で使用しないでください。
 - > コーヒーマシンは水しぶきがかからない場所に設置してください。
 - > 設置面への損傷を防ぐため、コーヒーマシンは必ず防水性があり、熱に強い敷物の上に設置してください。

重要

保証の章に注意
▷81° -ジ°以降
設置・使用条件
▷16° -ジ°以降

コーヒーマシンの技術的トラブルや損傷を避けるために、以下の注意事項に従ってください：

- 9 °dKH (炭酸硬度) 以上の飲料水向けには、WMF 浄水フィルターをご使用ください。WMF サービスが推奨する浄水フィルターを使用しないと、コーヒーマシンを破損するおそれがあります (カルキ付着など)。
- 安全を確保するために、業務終了時には必ず主電源スイッチを切るか電源プラグを抜いてください。水道水接続がある機械の場合、水道のメインコックは閉じていなければなりません。
- 損傷を防ぐために、以下の対策を推奨します：
 - 水道に適切な水検出器を取り付ける
 - 煙感知器の取り付け
- 休みの (数日/数週間) 後でマシンの運転開始を再度行う前に、クリーニングプログラムを2回以上実行することを推奨します。

システムクリーニング
クリーニングプログラム
ページ 65

9.2 ガイドライン

製造者: WMF Group GmbH, 73312 Geislingen (Germany)

本機はMRL (MD) 指令2006/42/EC、EMC 指令2014/30/EU および RoHS 2011/65/EU に関連する全ての指令に準拠しています。

上述の製造者はこのマシンがこれらのガイドラインに関連する全ての指令を遵守していることを宣言します。当社の許可なしに装置に変更や改造を加えると、この解説は有効性を失うものとし、技術関連資料の作成: WMF Group GmbH.

本機には適合解説書の原本が同梱されています。本機にはCEマークが付与されています。

本機は現行のドイツ食品および飼料法記録 (LFGB)、ドイツ消費財条例 (BedGgstV)、EU10/2011、EC規則1935/2004に準拠しています。

適正な目的で使用する場合、本機による健康被害のおそれや、不当な危険はありません。

使用される材料および原材料は、ドイツ消費財条例および欧州委員会 (EU) 規則No.10/2011に準拠しています。

欧州以外の国ではその国で指定される条件が適用されます。

本機は電気電子機械廃棄物指令 (WEEE 2012/19/EU) により、一般廃棄物としての廃棄が禁止されています。

EC規則No. 1935/2004基準でのトレイのリサイクルを確立し、EC規則No. 2023/2006に準拠した製造管理および品質管理に関する基準による製造を確実にすることを、当社は保証いたします。



廃棄の際には、WMF サービスまでお問合せください。

連絡先
▷73⁸⁶-ジ

9.3 管理責任者の義務

マシンの管理責任者は、WMF のサービス技術者、WMF の依頼を受けた技術者、またはその他の権限を有する技術者による定期的なメンテナンスと、安全に関する装置の点検を手配しなければなりません。

サービス領域へのアクセスが認められているのは、特に安全性や衛生面に関する本機の知識・経験が豊富なスタッフのみとなっています。

コーヒーマシンは、支障なくカスタマーケアやメンテナンスを行える場所
に、管理責任者が設置してください。

大容量の給仕を行う場合、コーヒーマシンの操作について訓練を受けた担当者がコーヒーマシンを監督する必要があります。トレーニングを受けたスタッフがカスタマーケア措置を守っていることを確認し、利用上の質問に対応するようにしてください。

マシンを使用する施設の電気設備と運転設備が使用地域の規定に準拠していることを、管理責任者は確認しなければなりません(ドイツ法的損害保険組合規定3など)。コーヒーマシンを安全にお使いいただくためには、特にセーフティバルブと圧力容器の定期的な点検が必要です。

これらの措置はWMFサービス、またはWMFが権限を与えたサービス技術者によって、メンテナンス作業の一環として行なわれます。

マシンクリーニングはWMFが備えているWMF専用のコーヒーマシン用クリーニング剤(クリーニング顆粒)でのみ実施するようにしてください。

装置の加片除去はWMFサービスエンジニアにお任せください。

メンテナンスのサイクルと頻度につきましては製造者が定める内容(▷メンテナンス)に従ってください。

WMF特殊加片除去剤
▷アクセスリトスス® 718° - ツ
87° - ジ

9.4 保証請求



取扱説明書を確認

- ・ 注意事項に従わずに起きた損傷については、保証対象外となります。
- > 設置・使用条件を守ってください。

重要

設置・使用条件
▷16℃ -ジ以降

購入者への保証の有無と、購入者への保証がある場合の保証条件は、購入者と販売者の間の取り決めによって定められるものとします。本取扱説明書の指示を無視して損傷が起きた場合は、保証の対象とはなりません。

保証対象外となるのは：

- 日常的な使用で消耗する部品全般。パッキン、ミキサー、抽出ユニットなどもこれに含まれます。
- 天候の影響、ホウ酸の付着堆積、化学的/物理的/電気化学的/電気的影響による不具合。
- 現場の水の硬度により浄水フィルタの使用が必要であるにもかかわらず、浄水フィルタを使用しないで不具合に至った場合。
- 本機の取り扱い、メンテナンス、カスタマーケアに関する規定（取扱説明書やメンテナンス指示など）に従わなかったことにより生じた不具合。
- WMF純正スペアパーツを使用しない場合や、マシンが購入者か第三者によって不適切に取り付けられている場合、あるいは不適切または十分な注意をとらなわれない取り扱いの結果として生じた不具合。
- 購入者、または第三者によるWMFの許可を伴わない不適当なマシン修理、改造、調整の結果生じた不具合。
- 取扱説明書に記述された用途以外の使い方をした結果生じた不具合。

重要

メンテナンス
▷73ページ


付録:テクニカルデータ

コーヒーマシンのテクニカルデータ

外寸	幅450 mm 高さ782 mm (足 4mm、ロックなし) 奥行605 mm
コーヒー粉ホッパー	約2,500 g ⁽¹⁾
保管容器容量	4リットル
空重量	約 65 kg
水の供給 ⁽²⁾	<p>設置場所:</p> <ul style="list-style-type: none"> • ½インチ (TW12)、主給水栓とホーティカルフィルター (250 µm) • 6 L/分の時の最小水圧0.36 MPa (3.6 bar) ⁽³⁾⁽⁴⁾ <p>機械側:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1x ½インチ (TW12) ホーイヤー入口 • 1x ⅜インチ (TW8) 洗浄給水管 • 6 L/分の時の最小水圧0.2 MPa (2 bar)、最大水圧0.6 Mpa (6 bar) • 最大給水温度 35 °C

予告なく仕様変更することがあります。

- ⁽¹⁾ 容量は、コーヒー粉によって異なります。
- ⁽²⁾ コーヒーマシンの給水接続には本規格 (IEC 60335-2-75) が適用されています。ご使用になる地域で定められた追加の規定がある場合には、これに従ってください。EU圏外では、コーヒーマシンを市場で販売する業者が、引用されている規格の遵守をチェックしてはなりません。
- ⁽³⁾ 給水部セットと水フィルターを介して起きる圧力損失を考慮します。これにより、1時間あたりの最大出力に必要な機械側の水圧は6 L/分で0.2 MPa (2 bar) を確保できます。

- ⁽⁴⁾  **注意事項**
圧力調整の調整ルチを機能させるため、機械接続部の前圧は6 L/分で2.4 bar必要です。これより圧力が低いと、圧力差が足りないため、設定値に応じて圧力調整を行うことができません。

水質	9°dKH (炭酸硬度) 以上の飲料水向けには、WMF浄水フィルターをご使用ください。
排水パイプ (オプション)	ホースはDN 40以上、最低傾斜は2 cm/m
NNを超える高さでの使用	<2,000 m
定格消費電力	9.3 kW
電圧	200 V、50/60 Hz、(3/PE)
ヒューズ (現場側で用意)	3 x 16 A
照明	LED等級
保護等級	IP X0
保護等級	IP 30
定格圧力	ホース 0.32 MPa (3.2 bar)
連続騒音レベル (Lpa)	<70 dB(A) ⁽⁵⁾
周辺温度	+5 °C ~ +35°C (寒いときは凍結防止のため水抜き)。
最高湿度	相対湿度80%、結露なし。 屋外での使用は禁止。
設置面/水しぶき	本機は必ず水平で安定した、防水性と耐熱性を備えた敷物の上に設置すること。 本機洗浄に放水は使用しないこと。マシンは水しぶきがかからない場所に設置してください。水ホース、スチーム噴射器、スチームクリーナー等で散布・クリーニングを行う場所には、本機を設置しないこと。

予告なく仕様変更することがあります。

⁽⁵⁾ コーヒーマシン操作スタッフ周辺の作業環境におけるA特性音圧レベル (A) と Lpa (インパルス) は、作動モードにかかわらず常に70dB (A) 未満です。

<p>取り付け時の間隔</p>	<p>機能上、およびサービス・安全上の理由から、マシンの側面は壁もしくは非WMF製コンポ-ネントから50 mm以上離して設置してください。背面では50 mm以上の安全距離が必要です。</p> <p>コーヒーマシンの前に800 mmの最小作業スペースを設けることを推奨します。製品棚の上には200 mm以上の空間を設けることを推奨します。</p> <p>設置面の upper 端から1,100 mmの高さを確保する必要があります。</p> <p>床の upper 端からの、設置面の高さは、700 mm ~ 900 mmにおさめる必要があります。コーヒーマシンの各種接続をマシン下からカウンターに通す場合、ライン敷設に必要なスペースに注意してください。敷設するラインによってマシン下の利用可能な空間が制限される場合があります。</p>
<p>浄水フィルタの取り付け寸法</p>	<p>浄水フィルタの取扱説明書を参照してください。</p>

予告なく仕様変更することがあります。

上記の電気接続基準と引用されている規格は、EU各国にてコーヒーマシンの接続規格として適用されます。ご使用になる地域で定められた追加の規定がある場合には、これに従ってください。EU圏外では、コーヒーマシンを市場で販売する業者が、引用されている規格の遵守をチェックしなくてはなりません。

現場の電気設備は IEC 60364 規格に準拠して国が指定する規則に従い配備され、また、機銘板に記載される仕様情報に対応していなければなりません。

本機のそばの、支障なくアクセスできる場所に、単相電源の場合 Schukoプラグソケットか使用国の基準の単相ソケットを、三相電源の場合は、DIN EN 50310

VDE 0800-2-310に準拠した5極CEE/CEKONソケットか使用国基準の多極ソケットを用意してください。プラグソケットはお客様側でご用意ください。主電源ケーブルが高温になった部品に接触しないようにお気をつけください。本機の主電源ケーブルが損傷した場合は、危険防止のためにWMF Fサビシヅニアか同等の資格を有するスタッフが交換を行ってください。

会計システムと接続して使用する場合、機械間の等電位化電流によって生じる可能性のあるケーブルのシールド線の不具合を防ぐため、追加の等電位化処理を行うようにしてください(DIN EN 50310 VDE 0800-2-310を参照)。

マシンを大型のキッチンに設置する場合には、接地・等電位ボンディング用導体をマシンに取り付けることを推奨します。アース端子(等電位ボンディング)の取り付けは、必要に応じてWMF Fサビシヅニアが行います。

付録:アクセサリとスハ°アハ°-ツ

数量	単位	名称	注文番号	装備
コーヒ-粉ホッパ°-/クリ-ニング° 顆粒デ°イスハ°ンサ-				
1	個	スハ°アキ-	33 2071 8100	全て
1	個	コーヒ-軽量ス°ン	33 0742 4000	全て
コーヒ-粉分離装置				
1	個	コーヒ-粉分離装置、かたけあり	03 9011 0002	全て
1	個	追加かたけ	03 9011 1001	全て
ド°リップ°ク°リット°/ド°リップ°トレイ				
1	個	ド°リップ°ク°リット°	33 4134 1000	全て
1	個	ホ°ット用拡張ド°リップ°トレイ	33 4140 0000	全て
アクセサリ-				
1	個	ド°レンコック 115 mm	33 1750 3000	全て
1	個	ド°レンコック 166 mm	33 9885 5000	全て
1	個	ド°レンコック 340 mm	33 9838 3000	全て
1	個	パイ°-クリ-ニング° (ス°ラッシュガ°-ド°)	33 2674 0000	全て
1	個	ホ°ットノズ°ルエクステンション 145 mm	33 4240 5000	全て
WMF ケア°プログラム				
1	パック	WMF専用クリ-ニング° 顆粒 (1,000 g)	33 2118 6000	全て
書類、取扱説明書				
1	個	「WMF 9000 F Internal Storage取扱説明書」 ド°キュメントセット	33 4307 0060	全て

索引

- アケサリとスベアパース 87
- イベントの表示 19
- インフォメーション 45
- エコモード 53, 57, 59
- エコモード「有効」59
- エコモード表示 59
- エラー表示 42
- エラー通知と不具合 75
- オン/オフ ボタン 19
- ガイドライン 79
- カウンタ 46
- カウンターのインストール 61
- カスタマー 34, 45, 62
- カップ容量 37
- クリーニング PIN 49
- クリーニング タイマー 52, 66
- クリーニング 頻度の概要 64
- クリーニング 顆粒用コンテナ 19
- クリーンロック 34, 69
- コーヒー豆の廃棄 28
- コーヒーマシンに対する危険 77
- コーヒーマシンのスイッチを入れる 23
- コーヒーマシンのスイッチを切る 29
- コーヒーマシンのテクニカルデータ 83
- コーヒーマシンの各部名称 18
- コーヒー供給口 19
- コーヒー供給口のクリーニング 67
- コーヒー粉ボジョナー 26
- コーヒー粉ボジョナーの清掃 69
- コーヒー粉ホッパー 19
- コーヒー粉分離装置 35, 58
- コーヒー粉分離装置の清掃 70
- サービス 45
- サイド照明 19
- サマータイム 53
- システム 54
- システムクリーニング 34, 65
- シングルショット 25
- スイッチ オフ リンス 35
- セルフサービスモード 41
- セルフサービスモードでのモード準備ディスプレイ 33
- ソフトウェア 30
- タイマー 45, 50
- タイマーの入る時間を設定 51
- タイマー予定表とタイマーの設定 50
- タイマー削除 51
- タイマー 日別概要 51
- タッチキリアクション 55
- タッチパネル 19
- タブレット洗浄剤投入口 19
- データのバックアップ 61
- データをリセット 61
- ディスプレイと照明 54
- ディスプレイ照度は自動的に減少 55
- テキストと画像 39
- テクニカルデータ 83
- ドリップトレイのクリーニング 68
- ドリップトレイ 19
- ドリップトレイイスタレーション 19
- パネルの照度 55
- パネルの背景 55
- パネル上の通知 31
- ファームウェアの更新 61
- フィルタ容量 56
- プログラムディスプレイ 54
- プロトコル 45
- ボタンシステム 57
- ボタンの入れ替え 39
- ボタンレイアウト 43
- ボタンレイアウト(タイマー) 52
- ボタン抽出 24, 25
- ボタン抽出フォーム 19
- マニュアル投入 19, 27
- メーカーのロゴ 44
- メインメニューの機能 31
- メッセージと注意事項 74
- メニューボタン 19, 41
- メニュー制御ボタン 31
- メンテナンス 73
- メンテナンスと材料除去 73
- リクエストタイムアウト 48
- レベルの保存 36, 60, 61
- レベルの変更 38
- レベルをリセット 36, 60
- ロゴ 44
- 一般的な安全上の注意事項 6
- 会計 46
- 会計PIN 49
- 使用目的 13
- 供給ボタン 37
- 供給テスト 36
- 供給可能 30
- 供給可能表示 18, 32
- 保管容器 19, 57
- 保管容器からの飲料供給 24
- 保管容器ロック 19, 33
- 保管容器の抽出量を設定する 40
- 保管容器への補充 52
- 保管容器手取り出し 43
- 保管容器用メニュー 19, 32, 42
- 保証対象外となるのは: 82
- 保証請求 81

備考 39
前回の抽出 45
取り付け時の間隔 85
取扱説明書の記号とマーク 20
外装のクリーニング 68
外部会計 46
安全上の注意事項 カタマーク 62
安全性 6
安全性と保証 77
定格消費電力 84
容量と供給オプション 37
序章 18
手動クリーニング 68
手動取り出し 19, 25, 33
抽出量 52
操作 22
操作オプション 41
操作に関する安全上の注意事項 22
操作パネル 19
操作パネルクリーニング (クリーンロック) 69
操作上の通知 74
操作要素 41
新しいPINを入力 49
時刻帯 53
時刻/日 50
暖機用リッス 58
概要 30
機能ライン 33
機能ライン供給可能表示 30
正味会計 48
毎日のクリーニング 65
水質 84
水道 83
水量 38
浄水フィルタ- 56
浄水フィルタと加熱除去 45
温度 57
無料設定 47
照明 54
熱湯/スリル 19
熱湯/スリルの清掃 67
熱湯供給 25
特殊キー 26
用語集 21

硬度の計測 56
管理責任者の義務 80
総硬度の計測 56
自動販売機 46
言語 59
言語プリ選択 42
言語をロードする 61
設定 35
設定PIN 49
設置・使用条件 16
設置面 84
説明 34
顧客ID (大) 44
飲料 36
飲料キー ボットコーヒ- 19
飲料キー 熱湯 19
飲料のキャンセル 23, 43
飲料のマークをロードする 60
飲料ボタン 32
飲料供給 23
飲料:文字 + 色 55

H

HACCPアクセスポート 61
HACCPクリーニングコンセプト 71

I

IPアドレス 48

P

PIN権限 48

U

USB 60

W

WMF サービス 73

お

お客様のID 44
お客様のIDをロード 44

シリーズ 8900 33 4307 0060 03.2021

お近くのWMF サービス:

© 2019–2021 WMF Group GmbH

複製、配布、翻訳など全権利を保有します。書面による許諾なしに、当マニュアルの一部または全てを何らかの形で複製、電子形式を使用して処理、複写、配布することは固く禁じられています。

デザインと製作/テキストおよび構成:

TecDoc GmbH; Geislingen, info@tecdocgmbh.de

取扱説明書 (翻訳版) 日本国内で印刷。

予告なく仕様変更することがあります。

26.03.2021



DESIGNED TO PERFORM

wmf.com